

和栗由紀夫が、『幻想の地誌学』に続いて、再び私の著書『肉体の迷宮』（東京書籍刊）をもとに舞台化に挑む！拙著を書き進める際には特に意識しなかったが、考えてみれば私の扱った肉体表象の多くは、また土方巽が暗黒舞踏というまったく新しい芸術ジャンルを創造するにあたって方法的に採り上げたものでもあった。土方の直系の弟子たる和栗が、拙著から舞踏化への熱い思いを醸すことになったのも道理といえるかもしれない。今回の作品の重要な部分に、しかしまたコンテンポラリー・ダンスの関典子も関わっているから、舞踏という言葉では括りきれない、異形の肉体たちの跳梁する異形の舞台が現出するはずだ。われわれはいったいどんな「迷宮」を彷徨することになるだろうか。

谷川 渥

人間が自分自身と取り結ぶ微妙な関係が狂気を生み出すように、自分と異形の肉体との微妙な距離が私の舞踏を支えている。正と負、美と醜、現実と虚構、自己と他者、その間を宙ぶらりんのまま彷徨い続ける私の前にいつも舞踏は開かれているのだが、そこに待っているのは自分という迷宮かもしれない。たとえ迷宮の中心が空っぽであったとしても、虚の力こそが舞踏家に勇気を与えてくれるものなのだというのを忘れてはならない。病み崩れる聖女リドヴィナが傷口から馥郁たる香りの膿を出しながら、闇と光とで肉体というタペストリーを織り続けている姿そのものが舞踏ではないのか？自分の肉体こそ踊るべき舞台である。舞踏50年の記念としてこの作品を師・土方巽に捧げます。

和栗由紀夫



和栗由紀夫

土方巽直系の舞踏家。その変貌を主体とする踊りの多様さは、今後の舞踏の新たな可能性を示している。また、言葉を通して身体イメージを喚起する、土方系独自の『舞踏譜』を使った振付法の継承と展開をはかりDVD-R【舞踏花伝】出版。



関 典子

ドイツ生まれ、宝塚市出身。幼少よりクラシックバレエを学んだ後、コンテンポラリーダンスに転向。禁欲性と官能性を併せもった独特の身体と表現力には定評があり、近年はソロ活動を中心に、美術・音楽・写真・殺陣など、他ジャンルとのコラボレーションを多く手がけている。神戸大学大学院人間発達環境学研究所講師。



岡田桂子



石本華江



渡辺由美



前田尚子



板垣あすか



田村かの子

スタッフ

構成・演出：和栗由紀夫
振付：和栗由紀夫・関典子
映像：岡崎潤・中島大・小野寺誠
舞台監督：青木健宏
照明：石井啓友・志賀正
音響：本田征也
衣装：谷口佳織
宣伝美術：瓶子デザイン事務所
写真：岩切等
制作：大神舞子／舞踏・好善社
主催：日暮里サニーホール・荒川区ムーブ町屋 指定管理者
株式会社シービーシーメソッド
舞踏・好善社

岩切等写真展『華』

和栗由紀夫の肉体を撮った新作と旧作を交えた写真をホールロビーにて展示いたします。

会期 12月3日(金)～4日(土)

和栗由紀夫+好善社舞踏公演

「肉体の迷宮」



12月3日(金) 4日(土) 午後7時30分開演(7時開場)

前売り 3000円 当日 3300円

チケットのご予約

●日暮里サニーホール
03-3807-3211
<http://cbc-sunny.jp/>

●Confetti
チケットセンター
0120-240-540
(受付時間 平日10:00～18:00)
<http://confetti-web.com>

問合せ

(株)シービーシーメソッド
03-3365-0159

日暮里サニーホール

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 5-50-5
ホテルラングウッド 4階

